

3. 様々な年代において、女性の自殺は増加傾向にある。
4. 自殺報道の影響と考えられる自殺の増加がみられる。
5. 本年8月に、女子高校生の自殺者数が増加している。
6. 自殺者数は、依然として女性よりも男性が多い。
7. 政府の各種支援策が自殺の増加を抑制している可能性がある。

○ 分析に使用されたデータ

- 警察庁「自殺統計」
- 雇用や生活を支えるための政策に関するデータ
- SNSやネット検索に関するデータ
- 自殺に関する相談として寄せられた声（2020年3月以降）

○ 分析における主なポイント

1. 本年の自殺の動向は、例年とは明らかに異なっている。

自殺者数の長期トレンド（2014年以降）を、統計的な方法で、7日間の移動平均をとるようにして分析したところ、長らく減少を続けていた自殺者数が2020年に入ったあたりから上昇に転じていた。男女別では、女性の自殺者数の上昇が顕著であった。

2015～2019年の回帰モデルに基づく予測値と実測値との差をみると、4月から5月までは実測値が予測値を下回る傾向にあり、7月中旬以降は逆に予測値を上回る傾向にある。

2. 本年4月から6月の自殺者数は、例年よりも減少している。

警察庁の自殺統計によれば、本年の月別自殺者数は6月までは前年比でいずれの月も減少しており、とりわけ4月と5月の自殺者数は、それぞれ対前年比で17.7%と15.3%と大幅に減少している。

2015～2019年の回帰モデルに基づく予測値と実測値との差をみても、4月に入ってからほとんどの日において2020年の自殺者数の予測値を下回っている。

社会的危機の最中あるいは直後には人々の死への恐怖や社会的連帯感・帰属感の高まりにより、自殺者数は減少することが多くの研究で報告されており、本年4月から6月にかけても、同様のことが起きた可能性がある。Google Trendsで調べた「コロナ」という用語の検索数は、東京都の小池都知事による「ロックダウン発言（3月23日）」前後から増加し始めて、3月30日に著名コメディアンが新型コロナウイルス感染症により急逝したことが報道された直後（実際に亡くなったのは3月29日）にピークを迎えている。自殺者数（日次）は、そうした中で減少している。

ツイッターのつぶやきに関する分析においても、「コロナ」と「仕事を失う恐れ」「収入減少」「生活苦」に関するツイートは2月下旬に増え始めたが、4月上旬以降は漸減していた。具体的には、「WHOが世界的に緊急事態を宣言した1月30日」と「安倍総理（当時）が全国臨時休校の要請を行った2月27日」に増加し、やはり「著名コメディアンが新型コロナウイルスにより急逝したことが報道された3月30日」に急増していた。

一方、4月以降、「緊急小口資金」と「総合支援資金」の貸付件数は増加しており、加えて「特別定額給付金」の社会的アナウンス効果が生活不安を緩和させた可能性も恐らくあ

って、そうした資金の貸付件数とツイートの件数には負の相関関係がみられる。このことから、政府が打ち出した各種支援策により、生活等への不安が、少なくとも一時的には、ある程度払拭された可能性がある。

これらのことから、新型コロナウイルス感染症による死への恐怖によって人々が自身の命を守ろうとする意識が高まり、同時に、自身の命や暮らしを守るための具体的な施策にアクセスできるようになったことにより、4月から6月にかけては例年よりも自殺者数が減少した可能性がある。

なお、これは自殺に関する相談として寄せられた声に関する考察だが、3月下旬頃から、自殺念慮を抱えた人たちから「今までは、生きるのが大変なのは自分だけだと思っていたが、社会全体が自分と同じような状況になってホッとした」「みんなが自分と同じようなつらい経験をしているのを見て、気持ちが楽になった」といった声が聞かれるようになった。自殺のリスクを抱えた人たちが、そうした思いになったことで、この期間中には自殺行動に至らなかった可能性（その結果として自殺者数が減少した可能性）も考えられる。

3. 様々な年代において、女性の自殺は増加傾向にある。

7月以降は特に女性の自殺の増加が目立つ。男女全体の自殺死亡率をみると、「20歳未満」「20～39歳」「40～59歳」「60歳以上」のすべての年齢階級における女性の自殺が押し上げていることが分かる。

また、さらに細かく、「性別×同居人の有無」と「性別×職の有無」について分析したところ、7月において「同居人がいる女性」は男女全体の自殺死亡率を0.7上昇させ、「無職の女性」は0.6上昇させていることが分かった。8月においては「同居人の有無」や「職の有無」が「不詳」となっている部分が多いが、それでも7月同様に、「同居人がいる女性」と「無職の女性」が、男女全体の自殺死亡率を上昇させている。自殺に関する相談として、配偶者と暮らす女性から「コロナでパートの仕事がなくなり、夫からは怠けるなど毎日怒鳴られる。こんな生活がずっと続くなら、もう消えてしまいたい」といった相談や、シングルマザーの母親から「子どもが発達障害で子育てがとても大変なのに、ステイホームでママ友とも会えず、実家にも帰れない。子どもの検診もなくなって、ひとりでどうやって子育てをしていけばいいのか分からない。死んで楽になりたい」といったような相談が多く寄せられている。

女性の自殺の背景には、経済生活問題や勤務問題、DV（ドメスティックバイオレンス）被害や育児の悩み、介護疲れや精神疾患など、様々な問題が潜んでいる。コロナ禍において、そうした、自殺の要因になりかねない問題が深刻化しており、これらが女性の自殺者数の増加に影響を与えている可能性がある。

また、内閣府によれば、政府や自治体の相談窓口寄せられたDVの相談件数の合計は、本年5月と6月において前年同月比でそれぞれ約1.6倍に増えたことが分かっているという。さらに、筑波大学の研究者の調査で、出産後の母親の「産後うつ」が新型コロナウイルス感染症の影響で、以前の2倍以上に増えているとの報告があるなど、コロナ禍で、人と接する機会や場が少なくなり、経済的にも不安定な生活を強いられる女性が増えている中で、今後女性の自殺リスクがさらに高まっていくことが懸念される。

参考文献

厚生労働大臣指定法人いのち支える自殺対策推進センター、「コロナ禍における自殺の動向に関する分析（緊急レポート）」、2020、
https://3112052d-38f7-4601-af43-2555a2470f1f.filesusr.com/ugd/0c32a8_91d15d66d1bf41a69a1f41e8064f4b2b.pdf

【3】お知らせ

◇ 精神保健福祉センターでは、こころの電話相談を次の時間帯で行っています。

月曜から金曜日 9:00～21:00

土曜日曜日（12月29日～1月3日を除く） 10:00～16:00

Tel : 0570-064-556

※ご相談の電話が集中しますと、つながりづらい状態になりますがご了承ください。

◇ HP・携帯版HPをご覧ください

北海道地域自殺対策推進センターのHPを開設しています。最新の北海道の状況を掲載しており、より情報を見やすく、分かりやすくお伝えできるよう心がけています。また、Andanteのバックナンバーへのリンクもございますので是非ご覧ください。

パソコンHP URL : <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/sfc/jisatutaisaku.htm>

また、携帯電話で見ることができる携帯版HPも開設しています。警察庁および北海道警察から公表された統計資料をもとに、北海道における自殺の状況を掲載しています。こちらも併せてご覧ください。

携帯HP URL : <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/sfc/i/joukyou.htm>

【4】編集後記

北海道ではついに雪が降り始め、いよいよ本格的な冬期間となってきました。まだ根雪にはなっていませんが、いつ移動の生命線である自転車が使えなくなるか心配です。

自殺に関する話題としては、10月27日に「令和元年版自殺対策白書」が閣議決定されました。現在は、厚生労働省の自殺対策のホームページで公開されていますので、興味のある方は是非御一読ください。詳しい内容については、今後、Andanteの方でも取り挙げさせてもらう予定ですので、楽しみにお待ち下さい。

いつもご愛読ありがとうございます。

次号 Vol.138 は、令和2年12月末に配信予定です。

お問い合わせ先

北海道立精神保健福祉センター
札幌市白石区本通16丁目北6番34号

Tel 011-864-7121

Fax 011-864-9546

URL <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/sfc/>

Mail hofuku.seishin1@pref.hokkaido.lg.jp